

三朝町望ましい小学校施設等の検討に関する中間報告

1 現状・課題

(1) 現状

① 施設の老朽化・安全性

- 小学校管理教室棟は築 53 年が経過し、鉄筋コンクリート造の一般的な耐用年限とされる 47 年を超過している。
- 施設の随所で雨漏り、損耗等が見られ、経年劣化が顕著である。
- いずれも耐震改修工事が行われ、躯体の安全性は確保されているもの、大規模改修工事が行われておらず、外壁材、天井等の非構造部材の耐震対策は十分とは言えない。
- バリアフリー化や現在の教育環境としては要求される水準と照らすと機能的に不十分な面が多い。

② 立地

- 現在の小学校は、町内の道路交通網の要に位置し、通学等の利便性に優れている。
- 小学校敷地内には三朝町上水道の水源があり、地下水脈への影響等を踏まえると敷地内での大規模な工事は難しい。

(2) 課題

① 少子化

- 将来推計人口によると、少子化に伴い、小学校は令和 7 年、中学校は令和 17 年からクラス数の減少が始まることが想定されている（令和元年の住民基本台帳に基づく人口及び国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口における年少人口 5 年毎の増減率で現在の児童・生徒数を割り戻した将来推計結果による）。
- また、近年の年間出生数に基づく推計では、最短で小中学校とも令和 15 年にはクラス数が 1 となる可能性がある（近年、三朝町の年間出生数は、小学校 1 年生のクラス最大人数である 35 人を割る年が続いている）。

② 財政事情

- 町の厳しい財政事情を踏まえ、整備費用の縮減はもとより、用地取得費や仮設校舎設置費等の関連経費が限りなく縮減できる計画とすることが望まれている。

- また、活用可能な国庫補助など町財政に優位な財源の積極的な活用を図ることも検討が必要である。（統合後おおむね6年以内の校舎等整備が対象とされる国庫負担金の特例制度等）

2 現状と課題を踏まえた方向性

現状・課題を踏まえると、現在の小学校は、安全性の確保と適切な教育環境確保の観点から、なるべく早期の改築が望ましい。

また、現在地は利便性が高く、町民に親しまれていることから、現在の敷地内での建て替えが望まれるが、工事の支障となる特殊な事情を踏まえると、極力、現在の小学校に近接した位置で整備することが望ましい。

3 望ましい小学校施設等の姿

(1) 望ましい小学校施設の在り方

① 「みささっ子教育ビジョン」の実現

新たな小学校施設の整備は、「みささっ子教育ビジョン」（平成31年制定）の目指す子ども像を実現することを基本方針とする。

② 利便性・安全性

新たな小学校施設は、ハザードエリア外にあって、子どもたちや地域住民も含め町民が支障なく利用でき、町民から広く親しまれる利便性、安全性の高い施設とする。

(2) 望ましい小学校施設の立地

以上の種々の条件を踏まえると、望ましい小学校施設の立地は、

- ① 現在の小学校に近く、子どもたちの通学や地域住民も含め町民のアクセスが容易な場所。
- ② ハザードエリア外にあって、必要とされるすべての施設が整備可能な広さを有し、極力用地取得を要しない安全な敷地。

であることが重要であり、これらを踏まえると現在の中学校の敷地が最も適していると考えられる。

なお、この場合、将来的な小中学校連携も視野に、現在の小学校グラウンドも含めた一体的な活用、現在のトレーニングセンターの活用、老朽化が進んだ町民プールの更新等の検討も必要である。

また、以下の点を始め、今後さらに検討を要する課題がある。

- ① 工事中期間における中学校としてのグラウンドの確保
- ② 工事中及び整備完了後の駐車場の確保